

JICA 中国事務所ニュース

2011年4月号

【東日本大震災特集】	2
【ニュース】	
◎ 円借入金材育成事業の成果を共有	4
◎ 都市廃棄物循環利用推進プロジェクト起動手を開催	5
◎ 四川省震災後森林植生復旧計画プロジェクト植樹祭の実施	6
◎ 言語聴覚リハビリテーション全国研修会 実施 20周年	6
◎ 安徽農業大学写真展	6
【寄稿コーナー】	8
【帰・赴任者コーナー】	9
【今後の予定】	9



日本、頑張れ！

皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。
編集室担当： shenxiaojing.cn@jica.go.jp

- ☆ JICA 中国事務所中国語ウェブサイトがリニューアルされました。
<http://www.jica.go.jp/china/chinese/office/index.html>
- ☆ 中国事務所ニュース <http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/index.html>
- ☆ ボランティア活動 <http://j.people.com.cn/99005/index.html>
- ☆ サーチナ JICA ページ <http://searchina.ne.jp/jica>

東日本大震災特集

東日本大震災によりなくなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますと共に、被災されたみなさま、避難を余儀なくされているみなさま、そのご家族、ご友人のみなさまに心からお見舞いを申し上げます。

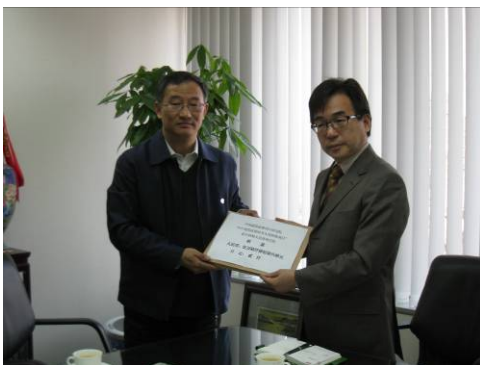
先月の JICA 中国事務所ニュースにおいて、JICA 中国事務所に多数のメッセージが寄せられていることをご紹介しましたが、その後も、JICA とその事業にご縁のある、中国のみなさまから、あるいは事務所へ、あるいは専門家・ボランティアを通じて、様々な形で多数の想いをお寄せいただいています。私たち JICA 中国事務所から、被災されたみなさまにお届けできる支援は、非常に限られたものですが、前回に引き続き今回も、このように多数の想いを被災されたみなさま、そのご家族、ご友人のみなさまへお届けしたく、東日本大震災特集を企画いたしました。ご覧ください。

■ 中国の緊急援助隊の活躍

今回の東日本大震災に際し、中国政府は、中国地震局応急救援司の尹光輝副司長を隊長とする国際救援隊 15 名を 3 月 13 日から 21 日まで日本に派遣しました。救援隊は、岩手県大船渡市において、幾多の困難の中、救助・捜索活動をされました。15 人の隊員の中には、JICA が中国で実施中の「日中協力地震緊急救援能力強化プロジェクト」の救助分野カウンターパートであり、中国地震局応急捜救センターの教官でもある胡傑さんが含まれています。胡さんは、今回の日本での活動について、JICA 中国事務所に対し、「今までにみたことのない津波の被害の激甚さに驚いた。一方で、防災・行政機関の対応が早かったこと、被災者が秩序正しいことにも驚嘆した。日本の消防機関と連携し仕事が出来たことに感謝したい。」と感想を寄せてくれました。

(所員 可児希代子)

■ JICA 有志義援金



JICA では有志が呼びかけ人となり全世界から義援金を集めました。JICA 中国事務所にも 1113 名の方々から協力が寄せられ、合計 640 万円の義援金が集まりました。JICA 全体では合計 5 千万円近くにもものぼり、この中でも中国からの協力は人数においても金額においても最大級でした。皆様からの暖かいお気持ちに心から感謝を申し上げます。義援金の配分は、被災自治体である宮城県、福島県、岩手県と、被災者への救援活動を行う国際協力 NGO センター(JANIC)に、それぞれ四分の一ずつお渡ししました。皆の力が結集された JICA 有志義援金は、緊急フェーズおよび復興フェーズの双方に活用される予定です。

お寄せいただいた義援金は、被災地にお届けします！

(所員 林伸江)

■ ボランティア配属先機関等からのエール



中国全土には現在約 60 人の JICA ボランティアが活動しています。今回の地震に際しては、ボランティアの配属先からも、たくさんの方の義援金とメッセージをいただきました。

義援金については、JICA 中国事務所へ届けられたものは、JICA 有志義援金として、それ以外は中国紅十字基金を通じて日本へと送られました。

JICA ボランティアの配属先から寄せられた寄せ書きやメッセージ動画などは、被災地の方々の元へと届けられました。

子どもたちに何か作品を作ってもらい、それを日本に送って日本の子どもたちを元気付けよう、と考えたのは、石井敬子隊

被災者・避難者を受け入れている青年海外協力隊二本松訓練所にて、掲示されたメッセージを見る子どもたち

員の配属先である湖南省株洲市の太陽宮芸術幼稚園です。2歳児から6歳児までの子どもが先生と一緒に慣れないペンを手に取り、「ガンバレ 加油」と桜の花をかたどった紙に書き、大きな桜の木を作ってくれました。桜の幹は、子どもたちの手形でできています。子どもたちは、「ガンバレ、ガンバレ」と口にしながら桜を制作しましたが、それは、ほとんどの子どもにとって、初めて口にした日本語となりました。

配属先の所在地が被災地と友好関係にある場合は、メッセージは、その友好関係にある自治体へ届けられました。湖北省から福島県へ、吉林省から宮城県へ、そして、遼寧省撫順市から福島県いわき市へ。浙江省温州市は、被災地の中でも特に大きな被害を受けた岩手県石巻市と友好都市関係にあります。宮坂智夏隊員の配属先である温州市外国語学校の生徒が心をこめて書いたメッセージは、石巻市立蛇田小学校と同蛇田中学校へ届けられました。



福島、頑張れ！



日本、頑張れ！

(ボランティア調整員 亀田春雄)

■ 四川にて (編注:四川省に派遣中の専門家から、震災後の様子を寄稿いただきました。)

私たちはちょうど1年ほど前、2008年の四川大地震で被災した山の修復のため、治山技術を伝えるに四川省にやってきました。一緒に仕事をする相手は、四川大地震で最も被害が大きかったブン川県、北川県、綿竹市の3市県の林業関係者です。

治山事業という、中国の林業部門にとって初めての事業の実施には戸惑いがありました。昨年一年間をかけてやっと工事が完成し、北川県の治山施工地で、にぎやかに記念植樹祭を終えての帰路のバスの中で、日本の大地震と津波の一報を受けました。

カウントパート等関係者から、まず3人の日本専門家の家族が無事かどうかの問い合わせが多くありましたが、その後は以前と変わらぬ態度で接してくれています。彼らはこの3年間プレハブの仮設事務所で仕事し、家族や同僚の多くが被災しているに違いないのですが、ともすれば彼らが大きな試練を背負っていることを忘れがちになるほど、元気です。それだからこそ、私たちもこの1年間遠慮なく議論をしながら、一緒に山を作ってきました。

カウントパート達がこの3年間どんな思いでやってきたのかはわかりませんが、言葉ではなかなか伝えられないことがあります。いつもと変わらず普通に接してもらっている中で、気遣いを感じ励まされる思いです。

(四川省震災後森林植生復旧計画 日本専門家一同)

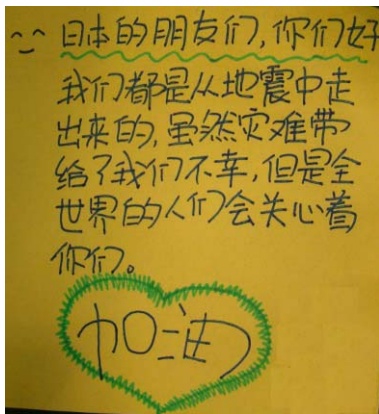
■ 四川の子ども達から東北の子ども達へー被災地同士の支え合い



「日本の友だちへ、私たちは同じ地球市民です」「私たちは震災から立ち直ってきました。ともに手を携えて困難を乗り越えていきましょう！」—心励まされる手書きのメッセージが四川大地震の激震被災地、北川県の子ども達から寄せられました。こころのケア人材育成プロジェクトの研修に参加した中学校教師が、東北の子ども達のせめてもの支えになれば、との想いで集めたものです。

同じくプロジェクトのモデルサイト、崇州市元通小学校からは子ども達のビデオメッセージとともに、多くの絵や書道が寄せられました。2010年4月に発生した青海省大地震の被災地・玉樹から、集団で四川省都江堰に移転している中学生からも「日本加油！（日本がんばれ！）」という写真付きメッセージが届きました。同じ被災地同士、痛みを分かち合いたい。そんな想いが伝わってきます。

プロジェクトに度々協力いただいている精神科医師、臨床心理士、スクールカウンセラー、学校教師といった兵庫の専門家たちはいま、様々な形で東北太平洋沖地震の被災地に入り、災害直後のこころのケアや学校再開支援などに従事しています。プロジェクトをとおした「四川」と「兵庫」の絆をこのような応援メッセージとともに、様々な形で「東北」につなげていきたいと思えます。（所員 小田遼太郎）



四川省の子ども達から寄せられたメッセージ、絵、書道

ニュース

円借入金材育成事業の成果を共有

3月18日、北京において円借入金材育成事業に関するセミナーを開催しました。当日は清華大学教育研究院からの調査結果の発表、日中双方のグッドプラクティスの共有が行われ、中国側からは、財政部、審計署、22省の財政庁・教育庁、大学代表者等約100名、日本側からは大使館、大学、日本学術振興会（JSPS）、科学技術振興機構（JST）等の政府関係機関等約30名の参加があり、日中合計で約130名が一堂に会しました。

円借入金材育成事業は中国内陸部を中心に22省・市・自治区の約200大学を対象に2001年度より実施している事業です。具体的な事業内容は1)支援対象大学における校舎等建設、(2)通信ネットワーク設備、実験器具等の教育設備導入、(3)大学関係者の訪日研修から構成されます。承諾額合計で約1,035億円におよび、これはJICAが各国に対して行ってきた教育分野の協力として最大規模のものです。訪日研修の実施においては、これまで約4500名の大学関係者が訪日研修を日本の300以上の大学・教育機関で行っています。

JICAは昨年、清華大学教育研究院に委託し、事業進捗と中間的な効果の発現状況を明らかにすべく、現況

調査を行いました。今回のセミナーでは、この調査結果について関係機関と意見交換を行うと共に、本機会を利用し、日中双方の事業のグッドプラクティスの共有を行いました。日本側からは島根大学、立命館大学等より円借款事業を通じた大学間交流に関する発表が行われました。



清華大学の調査結果からは、22省・自治区、1000億円以上にも及ぶ円借款事業は中国の高等教育分野における外国資金を用いた事業としては最大規模であり、実施過程には一定の難易度があったが、実施状況は基本的には順調であることが確認されました。また、本事業は中国高等教育改革の発展に重要な時期に実施され、中国中西部にある省の高等教育機構の基礎施設の改善などに対して、非常に大きな役割を果たしていること、特に地方の大学が教学型から研究型へ転換する時期をサポートしており、科学研究設備や教師の育成に貢献したことが明らかになりました。

今回のセミナーは、これまでの事業の成果と問題点を関係者全体で共有する良い機会となり、今後の事業のより円滑な実施に繋がることが期待されます。また、中国の人材育成分野への高い関心を背景に、今回のセミナーには多くの日本側の教育関連者に参加いただきましたが、JICAとしては、今後これまで円借款などの協力事業を通じ築いてきた人的・組織的ネットワークを活用し、更なる日中協力、そして日中大学間交流の促進を図りたいと考えています。

(所員 高島亜紗)

都市廃棄物循環利用推進プロジェクト起動式を開催

4月7日(木)、JICAと中国国家発展改革委員会は都市廃棄物循環利用推進プロジェクトの起動式を北京市内で開催しました。

起動式には発展改革委員会、対象となる地方4都市※関係者の他、環境保護部、住宅・都市農村建設部など中国側の政府機関や研究機関の関係者が出席し、日本側専門家も合わせて約50名が出席しました。

昨年10月のプロジェクト開始後、この起動式が日中関係者が一同に会する初めての機会となりました。これから約4年間の協力を本格的に進めていくことになります。



中国では、廃棄物のリサイクルや適正な処理システムの整備が遅れており、現状に適した循環利用制度の構築が課題となっています。本プロジェクトではこの課題に対応するため、都市廃棄物のうち、レストランなどからの食品ゴミ、PET ボトル・缶などの包装ゴミ、廃タイヤを対象として、日本の経験を参考にしながら国レベルの政策研究、地方4都市でのパイロットプロジェクト・計画策定などの協力を行います。

起動式後、日中専門家による対象都市での協議・現場調査が早速開始されています。

(※対象地方都市は浙江省嘉興市、山東省青島市、貴州省貴陽市、青海省西寧市)

(所員 坂元芳匡)

四川省震災後森林植生復旧計画プロジェクト植樹祭の実施 ～JICA 事業現場視察の実施～

3月11日、四川省震災後森林植生復旧計画プロジェクトで、国際森林年と全国ボランティア植樹30周年を記念した植樹祭が中国植樹節にあわせて四川省北川県で行われ、プロジェクトの活動により治山工事を終えたモデル区画に、びわ、くるみ、桜の3種類の樹木合計約250本を植樹しました。この植樹祭には、四川省林業庁や綿竹市林業局、北川県政府、日本系企業関係者、NGO関係者等約200人を超える参加者がありました。

間もなく四川大地震から3周年となるこの機会をとらえ、JICA中国事務所では、今後1年間JICA中国事務所の広報について意見を聴取するモニターを募集し、そのモニターに、JICAの事業とりわけ四川地震復興に関する取組みを紹介しながら、事業の現場を視察するモニターツアーを、また、中国メディアに対し、現場視察機会を提供するプレスツアーをあわせて行いました。モニターツアー、プレスツアーの一行は、植樹祭参加後、北川県の被災地区視察及び四川省で四川地震復興支援としてJICAが取り組んでいるもう一つのプロジェクトである、心のケアプロジェクトの関係者との懇談を行い、震災後の心のケアについても理解を深めました。

(所員 可児希代子)

言語聴覚リハビリテーション全国研修会 実施20周年



JICAは1986年から中国リハビリテーション研究センターへの協力を行なってきました。そこで養成された人材の多くは現在も同センターにおいて中核的役割を担っています。特に言語聴覚(ST)の分野においては、同センターの人材養成と並行して1991年から中国各地の言語聴覚リハビリテーション従事者を対象とする全国研修会を実施。体系的に言語聴覚(ST)分野の知識を学べる研修会として全国に知れ渡り、今年で20周年を迎えました。

3月21日に行なわれた記念式典には中川聞夫JICA事務所長をはじめとする日中の多くの関係者が集い、これまでの同分野における日中協力の変遷を辿る機会となりましたが、この20年間の成果はJICA専門家の献身的な活動のみ

ならず、中国リハビリテーション研究センターの弛まぬ努力を経て得たものだと確認することが出来ました。

(業務調整員 多田誠治)

安徽農業大学写真展

3月15日から16日まで、安徽農業大学(安徽省合肥市)において、JICA写真展を実施しました。JICA写真展は、主に大学生や一般市民等を対象として、JICAの、主に中国における事業の内容を、1979年の対中ODA開始時点から現在までを回顧しながら写真パネルを使って紹介するもので、今年度は、貴州省(貴州大学)、上海市(西部大開発20周年シンポジウムと併催)、安徽省(安徽農業大学)、南京大学(南京ジャパンウィークの一環)において、合計4回実施しました。

今回の写真展は、安徽農業大学の学生やその他の合肥市の大学で日本語を学ぶ学生、更には一般市民等が多数参観に訪れました。日中友好に関するメッセージを募ったところ、およそ350人がメッセージを寄せてくださり、そのうちの300通ほどは、前の週に発生した東日本大震災に関連して、「日本がんばれ。」「私たちはあなたたちと共にいます。」等、日本や被災地の人々を応援する内容となっていました。メッセージをお寄せいただいた皆さん、どうもありがとうございました！



(所員 可児希代子)

=====広報班からのお知らせ=====

- ・ NHKほっと@アジア 中国から3人のJICA関係者が出演します。



青木信彦企画調査員



豊岡孝章隊員



宮坂智夏隊員

4月から始まったNHKの新番組「ほっと@アジア」(BS1月一金 17:00-17:49放送)では、毎日、ハロー@アジアと題して、アジアで暮らしている日本人等に、その国の面白い生活習慣や行事、最新事情等を生放送でレポートするコーナーを設けています。(大体17:20から5分程度)

中国からは、来年3月までの1年間、青木信彦企画調査員、宮坂智夏隊員、豊岡孝章隊員の3人が交代で(1ヶ月に1回程度)出演する予定です。番組は、日本国外では見ることはできませんが、放送後DVDを入手する予定ですので、貸し出しをご希望の方は、事務所広報班までご連絡ください。

- ・ リーフレットの完成



2011年3月版のJICA中国事務所リーフレット(日本語、中国語、英語)が完成しました。JICAの中国における事業について紹介する内容で、コンパクトな体裁となっています。古いものがなくなり次第、新しいものの配布を始めます。配布をご希望の方は、事務所広報班までご相談ください。

寄稿コーナー

環境保全型養豚で日本大使館・草の根無償とコラボ！

3月9日、湖南省長沙市で草の根・人間の安全保障無償資金協力(以下「草の根無償」)の贈与契約式典が行われ、我々プロジェクトも参加してきました。「どうして大使館の草の根無償にJICAプロジェクト専門家が？」と申しますと、実は我々プロジェクトの試験・普及サイトでもあります長沙県開慧郷が、環境保全型養豚施設(ゼロエミッション豚舎と呼んでいます)を広く普及させるためのモデル作りをしようと、技術面では我々プロジェクトと協力しているのですが、そこに実際の豚舎建設の資金協力として日本国大使館の草の根無償と連携することができたのです！



この養豚施設では、豚舎から処理することなく直接地域環境へ排出されるふん尿が汚染源とみられる環境汚染対策として、微生物を混入させた敷料を利用し、豚のふん尿等を敷料が吸収・発酵することで、悪臭や豚舎からの排せつ物をゼロにします(写真をご参照下さい)。

日本政府からの支援(草の根無償)を受けて建設された豚舎をモデルとして、その支援効果を最大限発揮するために技術協力(JICAプロジェクト)側と連携していきます。特に技術の普及段階に向けて、養豚農家の環境保護意識を向上させるとともに、敷料をたい肥化して有機肥料として田畑へ還元する耕畜連携の取組みをJICAプロジェクトの活動を通じて促すことで、資源循環型の養豚を広めるインセンティブとなることを期待しています。

大使館・領事館が主に管轄している草の根無償は、主にBHN(ベーシックヒューマンニーズ)に資する案件ということで、基礎教育、医療施設・設備への支援が多いのですが、中国のように変化が激しい国では草の根無償の中にも農村環境保全のような新しい切り口での支援も意義があるであろうと、今回の連携案件形成に至りました。関係者のご尽力に感謝しつつ、今回の大使館とのコラボによる資金が有効に活かせるよう、更なるJICAプロジェクト側からの活動を加速させていきたいと思っております。

(持続的農業技術研究開発計画プロジェクト 今井淳一専門家)

赴・離任者紹介コーナー

長期専門家 樋口清高 ～職業衛生能力強化プロジェクト～



厚生労働省原籍の樋口清高と申します、どうぞよろしくお願い申し上げます。さて、労働災害に関してですが、一般的にどの国でも産業の発展に従って多様な労働災害が発生するとの経緯をたどってきました。動力機械の使用に伴って人が巻き込まれる災害が発生し、建設工事では高所作業が避けられず墜落の危険が生じ、運送に用いる自動車で交通事故が発生するといった具合です。一方、負傷の発生のみならず、産業活動に伴って健康面での影響も生じます。産業界では多様な物質が用いられておりそれによって健康を損ねる、過度の負担のかかる作業によって筋骨格系に障害が生じる、メンタルストレスに晒され不調が生じる等多様な形態があります。

今般のプロジェクトは、職業衛生問題に焦点を当て、その対策に係る行政や企業の能力の向上を目指すもので、典型的な課題を取り上げて技術協力を展開することとしております。

22年度4次隊が到着しました

青年海外協力隊平成22年度4次隊(1名)が3月28日に北京へ到着しました。日本国大使館など関係機関への表敬訪問や赴任時のオリエンテーション、約3週間の実践的な語学訓練の後に配属先のある山東省へ赴任しました。2013年3月までの2年間、地域の方々と共にリハビリ治療の向上に貢献できるように活動していく予定です。よろしくお願いします。

■ 青年海外協力隊

川崎善徳 理学療法士 山東省済南市
山東中医薬大学第二付属病院



語学訓練の様子

今後の予定

@ 5月23-25日:トキ保護30周年記念式典